「へんだ」と思うところあった？

今日のどうとくの時間。今日から絵本『へんなの』を使ってみんなの考えをきいています。おけしょうをしない、かみの毛がみじかい、ママのいもうとの「おばさん」。ぼくは、「女なのに、へんなの。」と思って、おばさんにたくさんおたずねします。

ここまで読んで、

「みんなは、どこで『へんだ』と思いましたか？」

とおたずねしました。

８年生きた子どもたちの「性別への見方」を知りたくて、聞いた質問でしたが、意外な結果が。子どもたちの意見を紹介します。

●せいべつは関係ないのに、女なのにあーだこーだ言うのがへんだとおもいます。　（たまきさん）

●かみの毛がみじかくて、へん。　（はるさん）

●男の子・女の子、分けているところがへんだと思います！　（えみりさん）

●どこもおかしくないと思う。　（てんまさん）

てんまさんのように、「へんだ」と感じるところがない子が多かったです。性別で人を分ける感覚は、大人のほうがあるんだなと、新しい発見でした。つぎのページが楽しみです。

新はっ見かかりより・・・

ピロティそうじのしばふをあつめたら、こんな草だんごができました☆

おはなしノート【冬休みのできごと】

雪とちがうこと

今日、本ぶから帰った後、雪がふっていました。ぼくは、バックをげんかんにおいてすぐに外へ出ました。たまちゃんとママが、

「ちょっと森たにさんのところにいくけど、なっちゃんも行く？」

とぼくに聞きました。でも、ぼくは、

「いかない。」

って答えました。こういう時は、たいていそうなります。家にパパがいたら、こうなるけど、パパがいなかったらついていかないといけないのです。

今日はつめしょにいってちょっとはやめのお年玉のおれいをいいにいったから、いかないとけなくなりました。つめしょにお年玉をくれた人がいたからです。

ちょっと話をもどしますが、ぼくは、雪を楽しみたかったから、行きませんでした。雪がちょっと強くなったりよわくなったりしました。ぼくは、もうそろそろ帰ってくるかな～と思ってみると、帰ってきていました。ママが、

「早くしないと、ドーナツ食べれないよー。」

と言いました。パパは、ばあばんちにいたのです。家の中に入ってドーナツを食べおわると、ちょうどパパが帰ってきました。たまちゃんとママはまだ食べていました。ぼくは本を読みました。多分パパにはばれていると思います。でも、雪がふっているところをみれてよかったです。

【前田　夏見さん】